

「株価と移動平均線の位置関係」

JP法研究会 富士栄

株価と移動平均線の位置関係でよくいわれることの1つが、相場のトレンドを測る手法です。

例えば、株価が13週移動平均線を越えてきましたね～、とか26週移動平均線を下回ってしまい、下降トレンドですね・・・などです。

各位置関係は、おおむねこんな感じです。

上昇トレンド時の位置関係は

終値 > 13週移動平均線 > 26週移動平均線

下降トレンド時の位置関係は

26週移動平均線 > 13週移動平均線 > 終値

底打ち、下降トレンドの終わりの位置関係は

26週移動平均線 > 株価 > 13週移動平均線

上昇トレンド始まりの位置関係は

終値 > 26週移動平均線 > 13週移動平均線

ピークアウト、上昇トレンドの終わりの位置関係は

13週移動平均線 > 株価 > 26週移動平均線

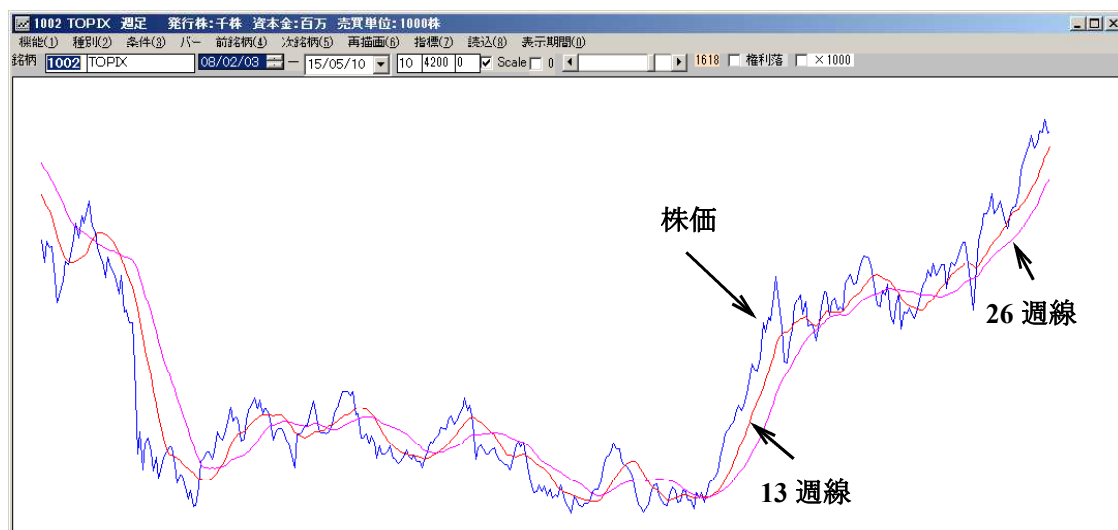
下降トレンド始まりの位置関係は

13週移動平均線 > 26週移動平均線 > 株価

今回はこの6つのパターンの内、上昇トレンド時と下降トレンド時の2つのパターンについて、実際はどうかを調べてみました。

週足分析です。使用する移動平均線は、13週と26週です。

TOPIX週足チャート



上昇トレンド時

終値 > 13週移動平均線 > 26週移動平均線

WORKシートの設定内容

WORKシート 週足用 200番

コメント

一覧表 取込 CSV 変更 初期化 印刷 保存 閉じる

	チェック	周期			V字			以上			以下			G
		短	中	長	短	中	長	短	中	長	短	中	長	
弾性値	<input checked="" type="checkbox"/>													
カイリ度														
Sカイリ度														
コストカイリ度														
Sコストカイリ度														
順位相関係数														
相対力指数														
サイン波(サイン)														
オシレータ														
R C I														
S T C														
M指標(周期固定)		4.13	9.26											
MAV指標(周期固定)		4.13	9.26											
出来高倍率														
出来高倍率2														
S相対力指数														
Sオシレータ														
R J指数														
VR①(ボリューム①)														
VR②(ボリューム②)														
移動平均①														
移動平均②		1	1	13	26									
ハイローバンド														
本体結合(高倍率用)														

移動平均線②を使います。
周期は、1、13、26です。

さらに右側へスクロール

WORKシート 週足用 200番

コメント

一覧表 取込 CSV 変更 初期化 印刷 保存 閉じる

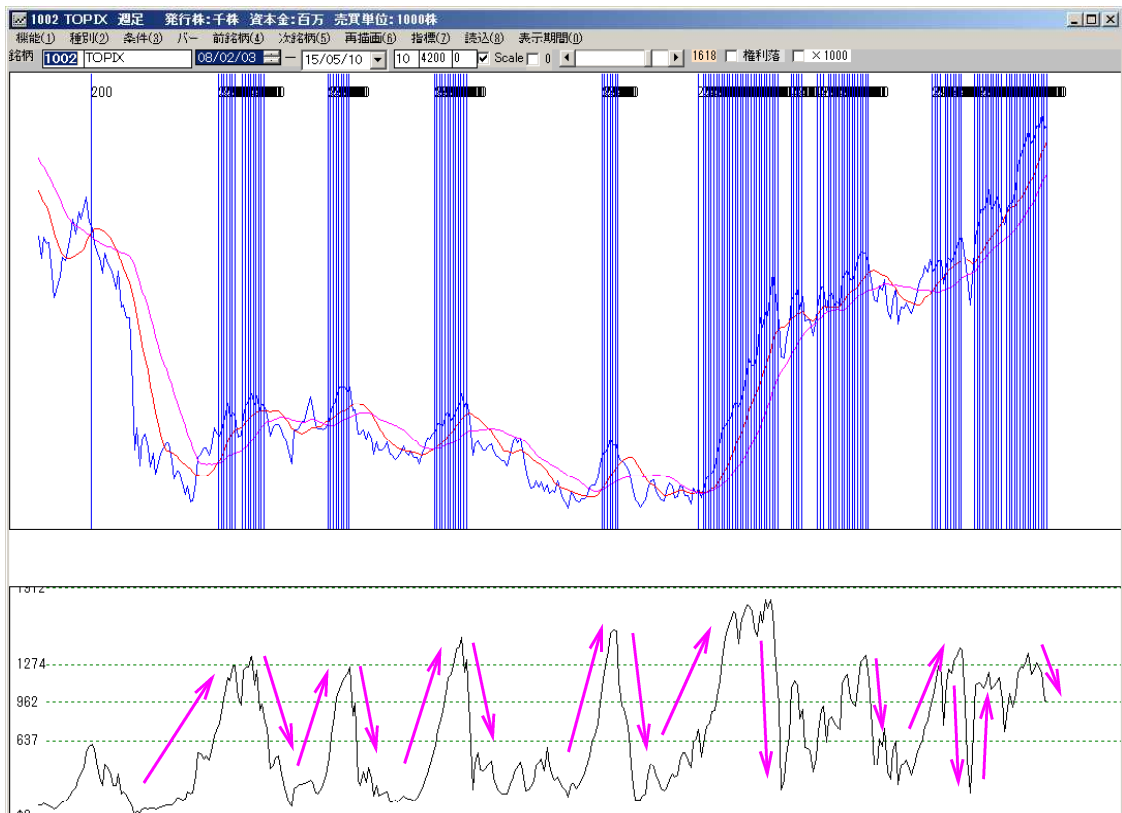
	中長	短長	DC以下			大小			昇降	基準値	中	長
			短中	中長	短長	短中	中長	短長				
弾性値												
カイリ度												
Sカイリ度												
コストカイリ度												
Sコストカイリ度												
順位相関係数												
相対力指数												
サイン波(サイン)												
オシレータ												
R C I												
S T C												
M指標(周期固定)												
MAV指標(周期固定)												
出来高倍率												
出来高倍率2												
S相対力指数												
Sオシレータ												
R J指数												
VR①(ボリューム①)												
VR②(ボリューム②)												
移動平均①												
移動平均②							1	1	1			
ハイローバンド												
本体結合(高倍率用)												

大小の項目に、
1、1、1と入力します。

上昇トレンド時に縦線、下は東証1部の合格数グラフ

小さい山、上昇だと天井近辺となる。

アベノミクススタート以降のような大きな相場では、うまくとらえる事が出来る。



合格数グラフについて

右肩上がりになっている場面は上昇トレンドになってきた銘柄が増加しているという証拠。

相場が上がれば上がるほど、右肩上がりに増加していく。

そして、ピークアウト。これは、個別銘柄の上昇トレンド傾向が天井打ちとなり、減っていき下降へ向かっている事を表している。

直近では、下降傾向となっているため、個別銘柄がピークを打ち、下がってきている銘柄がジリジリと増えているということ。

ただし、グラフが下降してきているとはいえ、東証一部全体と比較すると、まだ上昇トレンドにある銘柄のほうが多い。

半分まで下降して、やっと半々といえる。ただし、下向きであるから、さらにピーク打ち銘柄が増加していくと予想される。

そして、どこで再び上向きとなるか、そこを捉えたい。

下降トレンド時

終値 < 1 3 週移動平均線 < 2 6 週移動平均線

WORKシートの設定内容

WORKシート 週足用 201番

コメント

一覧表 取込 CSV 変更 初期化 印刷 保存 閉じる

	チェック	周期			V字			以上			以下			G
		短	中	長	短	中	長	短	中	長	短	中	長	
弾性値	<input checked="" type="checkbox"/>													
カイリ度														
Sカイリ度														
コストカイリ度														
Sコストカイリ度														
順位相関係数														
相対力指数														
サイン波 ² 加算														
オシレータ														
R C I														
S T C														
M指標(周期固定)		4.13	9.26											
MAV指標(周期固定)		4.13	9.26											
出来高倍率														
出来高倍率2														
S相対力指数														
Sオシレータ														
R J 指数														
VR①(ボリューム1)														
VR②(ボリューム2)														
移動平均①														
移動平均②		1	1	13	26									
ハイローバンド														

移動平均線②を使います。
周期は、1、13、26です。

さらに右側へスクロール

WORKシート 週足用 201番

コメント

一覧表 取込 CSV 変更 初期化 印刷 保存 閉じる

	中長	短長	DC以下			大小			昇降	中	長	基準値		
			短中	中長	短長	短中	中長	短長				短	中	長
弾性値														
カイリ度														
Sカイリ度														
コストカイリ度														
Sコストカイリ度														
順位相関係数														
相対力指数														
サイン波 ² 加算														
オシレータ														
R C I														
S T C														
M指標(周期固定)														
MAV指標(周期固定)														
出来高倍率														
出来高倍率2														
S相対力指数														
Sオシレータ														
R J 指数														
VR①(ボリューム1)														
VR②(ボリューム2)														
移動平均①														
移動平均②							3	3	3					
ハイローバンド														

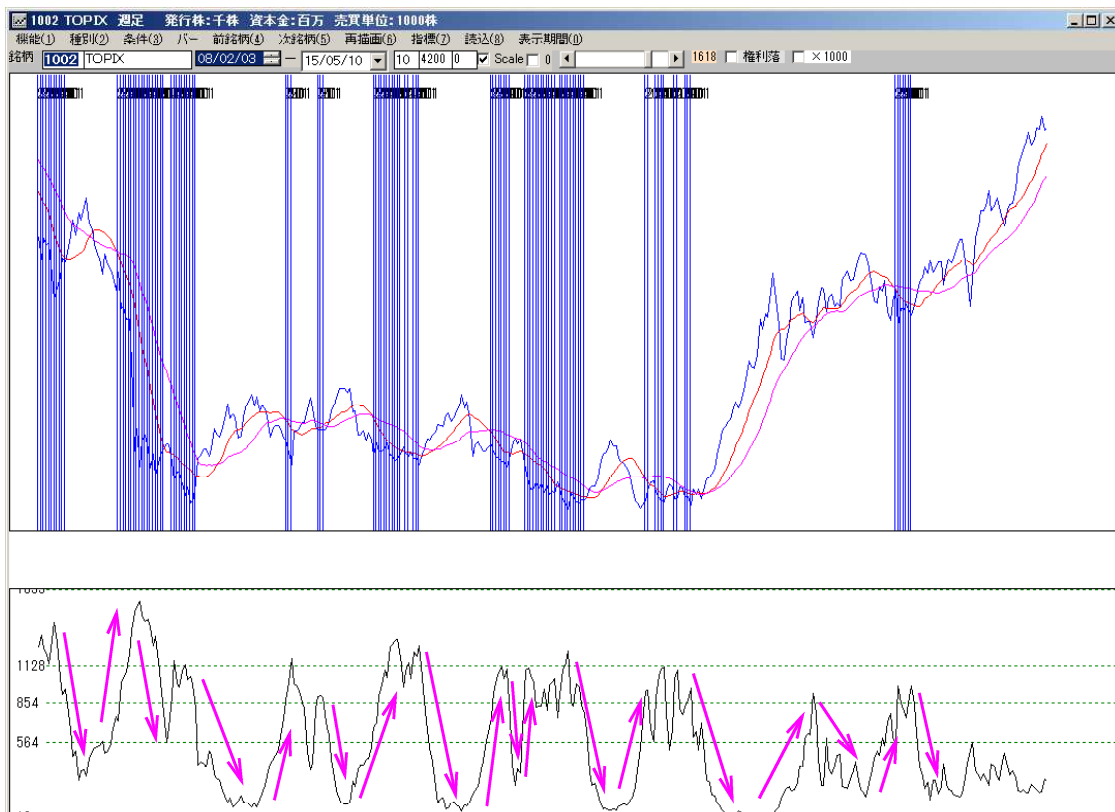
大小の項目に、
3、3、3と入力します。

下降トレンド時に縦線、下は東証1部の合格数グラフ

急落反転相場だとそこが、売りではなく買い場となっている。

アベノミクススタート以降のような大きな相場では、押し目買い局面。

リーマンショック時のように、大暴落が続かない限り、下降局面を捉える事は難しそう
だ。



合格数グラフについて

右肩上がりになっている場面は下降トレンドになってきた銘柄が増加している事を表し、相場が下がっていくであろう意味合いを持つ。

逆に、右肩下がり場合は、下降トレンド銘柄が減ってきて、上昇相場になりつつあるのではないかと予想出来る。

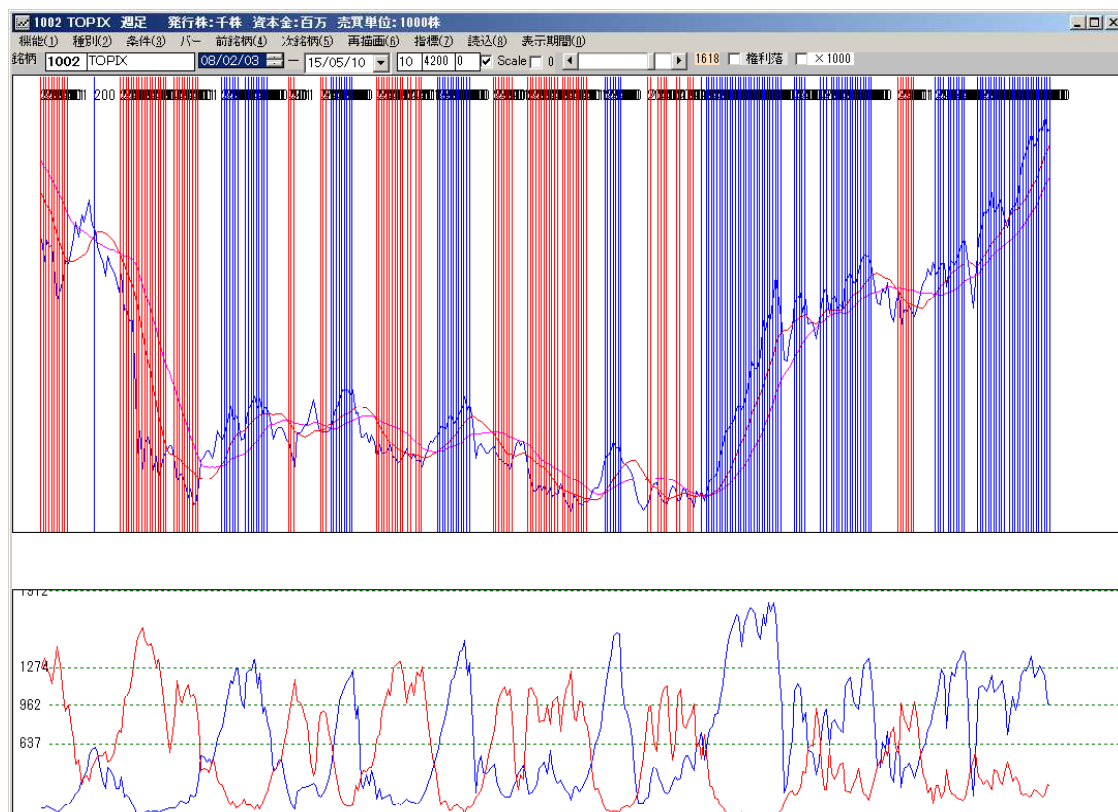
ギザギザ同士の幅が狭い期間は、相場が乱高下している事を表し、トレンドが出ていないといえる。

ピークアウトしてから、買い向かうとよさそうである。

上昇トレンド時と下降トレンド時を合わせて表示

上昇トレンド、下降トレンド共に、当然の事ですが、大きなトレンドが発生しない限りどちらに動くとは何とも判断出来ない。

急落からの反転上昇の場合、捉える事が出来ない。
この場合は、逆張りのパターンが有効だと思われます。



合格数グラフ

上昇トレンド銘柄の数と下降トレンド銘柄の数が入れ替わる時、つまり合格数グラフが交差するところで仕掛けるのも面白そう。

買いであれば、青線が赤線を上回ったところ。

売りであれば、赤線が青線を上回ったところ。

チャート上のサインより、合格数グラフで相場を判断したほうが良さそうに思える。

今回は6つのパターンの内、2つだけの考察ですが、6つ全てのパターンの合格数を見ていけば、大きな相場の流れを捉える事が出来るという考え方もあります。